

看護のアジェンダ

井部俊子
長野保健医療大学教授
聖路加国際大学名誉教授

看護・医療界の“いま”を見つめ直し、読み解き、未来に向けたアジェンダ(検討課題)を提示します。

〈第218回〉

松谷美和子さんの贈り物

「彼女の置かれた状況は、その美しさ故により悲劇的に見えた。彼女には外見のダメージがほとんどなかった。脳室ドレーンが頭髪の下からくねり出し、排液が容器の中に溜まっていた。胸部は設定どおり1分間に14回上下し、点滴のラインはガウンの下に隠され、端末は中心静脈に繋がっていた。バイタルサインはモニター上、問題がなかった」。

彼女は高速道路で何回か宙返りした車に乗っていて脳に負傷を負った。彼女には3歳と0歳の幼い子どもがいた。海外に派遣されていた軍人の夫は、軍服に身を包んだまま、深夜に到着した。彼女に付き添いはじめて5日目の晩、彼はどうしたらよいかと私に訊いた(筆者註:「私」はこのエッセイを書いたナースである。以下同)。

私は、彼女の思いを大切に決断してみたたらと提案した。彼はケアを止める決断をした。私は、抜管し、生命維持装置を取り去り、ご家族を招き入れた。彼女の呼吸が徐々に遅くなり、ついに停止した。私は扉口に立ち、亡くなるのを見守った。夫は最後に部屋を出て行くときに私を抱きしめ、妻もあなたに感謝しているはずだと、私の気持ちを思いやってくれた[Amanda L Richmond (BSN, RN-BC)『最高に困難な決断』]。

*

「私は、クラウス氏が心臓疾患ICUに入院した後、水曜日の午後9時にクラウス家の人々に会うことになった。彼は年配の禿頭の方で、淡いブルーの瞳をもち、疲れ、おびえているように見えた。『長い夜になりましたね』。酸素チューブを調整し、心機能監視装置のリードを取りつけながら話しかけた」。

ほっそりした背の低い、赤みがかったブロンドヘアの妻は、病室に入ると彼の手を取り、両手で包み、額にキスをして「私はここに留まります」と彼に言った。それからクラウス夫人は夫のそばを離れなかった。この病棟は面会時間が厳しく、家族は家に帰ることになっていた。クラウス夫人は、シャワーも浴びず睡眠も取らず、食事も取っていない。このままだと倒れてしまうので帰宅して休むようにと勧めた。彼女は私の腕に手を置き、ゆっくり自分の左の袖を捲り上げた。彼女の腕にタトゥーで番号が彫られていた。彼女は、私たちが離れ離れだったのはアウシュビッツに居た時だけであり、「私たちは二度と離れないと約束した」と言って袖を下ろした。私は、ナース

ーションで彼らの話を伝え、クラウス夫人がそうできるようにした[Dawne De Voe Olbrych (MSN, RN, CNS)『離れられない』]。

*

「生徒が1500人の活気ある都会の高校に勤務するただ1人のヘルスケア提供者には、やりがいのある仕事がある。1日に50人から80人の、鎌状赤血球貧血から糖尿病、発作障害、妊娠、外傷、詐病に至るまであらゆることを看ている。マーカスが初めてここにやって来た時、私は机の前に座り、事務処理の遅れを取り戻そうとしていた。彼は扉越しに立ってこう尋ねた。『バンドエイドをもらえますか?』。そうした要求は珍しいことではないので、1つ渡して仕事に戻った」。

彼の上腕には汚れた汗まみれのぼろぼろの包帯が巻かれていた。銃で撃たれた傷であった。救急センターで治療を受け、抗生物質の処方箋を持っていた。15歳の少年には「必要なときに助けて」と連絡できる人が誰もいなかった。4か月後、マーカスは母親との関係を取り戻し、別の地区の学校に行くようにしていた。銃の傷は完全に治っていた。マーカスのような生徒が毎日やって来る。彼らは宿題を仕上げようなんて思ってもいない。彼らは生き抜くことを考えている。私ができることは、彼らがバンドエイドを求めてきた時にここに居るのがせいぜいかもしれない[Marie F. Kersher (BEd, RN, coordinated by Veneta Masson, MA, RN)『バンドエイドをもらえますか?』]。

*

「私の看護師免許は書類の山の一番上にある。自分の免許を活かし続けるかどうか迷った。直ぐに結論が出た。長い間患者さんから離れていたが、免許があることは未だ重要だった。臨床を離れてから、看護師や保健師教育に携わり、学部長を務め、一時はこれらすべてを担った。しかし、肩書きはどうであれ、いつも看護師として生きてきた」。

ナースマネージャーや専門看護師の仕事の意義や功を認めてもらう経営関連データを掘り起こすとき、私はデータや、データの解釈を通して、患者や患者ケアの擁護者となった。財務課の同僚が私を「元看護師さん」と呼ぶが、「私は年寄りだけど現役よ」と明言する[Donna Diers (PhD, RN, FAAN)『私は看護師?』]。

*

ここに引用した4編のエッセイは、松谷美和子訳『看護体験のリフレクシ

Medical Library

書評・新刊案内

子どもの「痛み」がわかる本 はじめて学ぶ慢性痛診療

加藤実●著

A5・頁160
定価:3,850円(本体3,500円+税10%) 医学書院
ISBN978-4-260-05008-1

子どもの痛みは歴史的に過小評価されてきました。その中で、多くの研究者たちが子どもの痛みについてのエビデンスを積み重ね、「子どもはむしろ痛みを感じやすい」ということが明らかになりました。その結果、諸外国では子どもへの痛みの対応が丁寧実践されていますが、わが国においては十分に対処されているとはいえない状況があります。著者である加藤実先生は子どもの痛みに真摯に向き合い、丁寧に臨床を重ねられ、さまざまな学会でその重要性を訴えてこられました。その集大成が本書であると思います。

本書で紹介されている慢性痛は、急性痛とは異なるアプローチが必要となりますが、そもそも小児領域では急性痛、慢性痛という概念すら十分に浸透していない状況です。慢性痛は心理的苦痛や社会的影響を伴い、子どもたちの生活の質に深刻な影響を及ぼす可能性があり、生物心理社会的(biopsychosocial)アプローチが必要となります。3~4人に1人が経験するとされ決してまれでない慢性痛は、小児プライマリケア診療においても重要な領域ですが、体系立って学ぶ機会が少なく、本書の役割は大きいといえます。

本書では痛みを「感覚」「情動」「認知」の3つの成分に分けて、その要因の評価と対処法が記されています。通底するメッセージは「子どもを主語に」です。それは著者の「痛みを治すのは医師や薬ではなく、あなたです」とい

「子どもを主語に」小児の慢性疾患にかかわる全ての人へ

「子どもを主語に」小児の慢性疾患にかかわる全ての人へ

「子どもを主語に」小児の慢性疾患にかかわる全ての人へ

【評者】余谷暢之
国立成育医療研究センター総合診療部
緩和ケア科診療部長

う言葉に表れています。痛みの対応を自分ごととして取り組むために、多職種アプローチでその子の背景にある情報を丁寧に収集し、アセスメントを行い、子ども本人が自身の痛みの原因と機序について理解できるように説明すること、これが子どもと家族にとって大きな支援になっているのではないのでしょうか。自分の痛みがこのようにして起こっているのだと理解することで、痛みが理由もわからない怖いものから、理由があるコントロールできるものに変わるのだと思います。それが、痛みに対して自分で取り組もうというモチベーションにつながり、コントロールできるようになることで自己効力感が高まるという正の循環に入るのだと思います。

とはいえ、このアプローチは容易ではありません。本書では、慢性痛の理論的な背景が非常にわかりやすい言葉で説明されているだけでなく、具体的な症例へのアプローチの方法も「症例紹介」の中にたくさん紹介され、まるで加藤先生の臨床を傍らで眺めているような臨場感に溢れています。これを読めば、慢性痛を訴える子どもが自分の外来を受診した際に具体的にどうかかわるかのイメージが持てるでしょう。このコンセプトは痛み診療に携わる方だけでなく、小児の慢性疾患にかかわる全ての人にとって参考となる内容です。子どもにかかわる多くの方に手に取っていただきたいと思います。

は最後のものとなります。看護職をめざす学生や大学院生と共に自己を啓発する仕事に就いてきた者のライフワークとしてこの訳書をお届けしたい」と。

私の同僚であった松谷美和子さんは、2020年2月に腓がん罹患が判明したあと、外来での化学療法と並行して大学などの仕事をこなしつつ、翻訳に没頭した。翻訳出版の許諾が得られたのは2022年5月10日であった。訳者は体調の優れない中、最後の見直しを行い、出版の調整、著者校正などを夫に託し、6月10日に自宅で最期の日を迎えた。日本語版の上梓は2か月後の8月10日であった。この経緯を、添えられていた手紙で私は知った(本書は日本語版の制作許諾を経て、販売を目的としない限定部数で出版されている)。

誰も教えてくれなかった、子どもならではの「痛み」の診かた・考えかた

子どもの「痛み」がわかる本 はじめて学ぶ慢性痛診療

子どもは大人より痛みを感じやすい? 子どもの頃の痛みの体験がその後も影響する? 予防接種の時に痛みを減らす方法があるの? 集学的痛みセンターで長いあいだ慢性痛診療に取り組んできた著者が伝える、子どもならではの「痛み」の診かた・考えかた。同じ「痛み」でも急性痛と慢性痛の捉え方のちがいを、診療のコツや豊富な症例を交えながら、わかりやすく解説している。巻末付録には日常臨床の疑問に答えるQ&Aもあり。

加藤実



A5 頁160 2022年 定価:3,850円[本体3,500円+税10%] [ISBN978-4-260-05008-1]

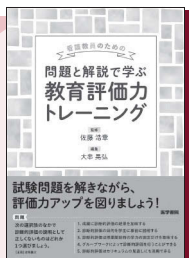
医学書院

「評価」は教育の要! 問題を解いて解説を読み、教育評価力を鍛えましょう。

看護教員のための 問題と解説で学ぶ教育評価カトレーニング

評価は教員にとって非常に重要な働きですが、自らが評価された経験をもとにするだけでは十分に対処できないことは、日々感じられておられるでしょう。本書では、問題形式と解説で、教育評価の知識を学びやすく構成しています。I部では教育評価力向上のメリットを説き、II・III部で教育評価の具体的な場面を設定したうえで問題と解説を取り上げています。初心者もベテランも、本書でトレーニングしてみてください。

監修 佐藤浩章
編著 大串晃弘



A5 頁152 2022年 定価:2,640円[本体2,400円+税10%] [ISBN978-4-260-05060-9]

医学書院